

## 令和5年度第1回江別市子ども・子育て会議 開催結果（要旨）

日 時：令和5年9月1日（金）14時00分～15時20分

場 所：江別市民会館3階 37号室

出席委員：藤野友紀会長、榮忍副会長、蛭谷敏明委員、圓成泰生委員、小倉ちひろ委員、  
久保祐紀委員、齊藤圭子委員、常盤忠明委員、松原侑希委員、守屋環委員

欠席委員：石塚誠之委員、松本直也委員、八木橋源委員、若林卓実委員

事務局：金子健康福祉部子育て施策推進監、宮崎子育て支援課長、  
気境子育て支援課事業調整担当参事、本田子育て支援課子ども家庭係長、  
天野子ども育成課長、須藤子ども育成課給付係長、  
菅原会計年度任用職員

傍聴者：3名

### 会議概要

#### 1 開 会

#### 2 議 事

##### (1) 協議事項

##### 江別市子どもの生活実態調査、ヤングケアラー調査の実施について

###### ○藤野会長

それでは、次第2、議事の（1）協議事項、子どもの生活実態調査、ヤングケアラー調査の実施について、事務局から説明をお願いいたします。

###### ○気境子育て支援課事業調整担当参事

それでは（1）江別市子どもの生活実態調査、ヤングケアラー調査の実施について、ご説明いたします。資料1をご覧ください。

今年度江別市では、子どもの生活実態調査とヤングケアラー調査を実施いたします。

子どもの生活実態調査については、前回調査時から5年が経過し、この間、社会情勢も大きく変化していることと、来年度の「子ども・子育て支援事業計画」見直しも踏まえて、改めて今現在の実態把握のため実施を考えているもので、ヤングケアラー調査については、今回初めて江別市の実態把握に向けて、実施を考えているものです。

まず、1の調査目的ですが、子どもの生活環境や家庭が抱えている困難、またヤングケアラー等の実態の把握により、子どもに係る今後の施策検討の基礎資料とするものです。

2の調査対象は、資料記載のとおり、前回と比較可能となるよう、資料記載のとおり、前回と同じ区分で実施いたします。

3の調査内容は、子どもの生活実態調査では、保護者の収入・就労など含めた生活状況や、子どもの様子、子育ての悩みや困りごと、制度の利用状況などについての内容、また、ヤングケアラー調査では、お世話が必要な家族の有無、お世話の状況、学校生活等への影響、相談経験の有無、などについての内容であります。

4の調査方法ですが、無記名によるアンケート方式であり、小学生、中学生及びその保護者については、各学校を通じ、アンケートの配付をお願いする予定であり、高校生については、郵送配付する予定です。

また、回答方法については、原則WEB上で行うことを想定しております。

5の実施時期については、発送等準備を経て、10月上旬を予定しております。

6の回答手順ですが、配付する調査依頼文書に、WEB回答フォームに繋がるための2次元コードと、ログイン用のID、PWを記載する予定であり、それにより回答していただく流れを想定しております。

7の主な日程ですが、各学校配付につきましては、8月21日開催の小中学校校長会に協力をお願いしてきたところです。

本日の会議で、調査票内容の検討を行い、10月に調査実施、12月に取りまとめ速報の公表と年度末までに結果公表の流れを考えております。

実施概要の説明は以上でございます。

次に、調査票案について、ご説明いたします。

初めに資料の確認ですが、資料2-1から2-4までが、子どもの生活実態調査に関する調査票案、資料3-1、3-2がヤングケアラー調査の調査票案でございます。

また、子どもの生活実態調査は、4種類となっておりますが、2-1が「小学5年生、中学2年生の子ども」の調査票、2-2が「高校2年生の子ども」の調査票、2-3が「小学2年生、小学5年生、中学2年生の保護者」の調査票、2-4が「高校2年生の保護者」の調査票となっております。

ヤングケアラーの調査は、対象を子どものみとしており、資料3-1が「小学5年生の子ども」の調査票、3-2が「中学2年生、高校2年生」の子どもの調査票となっております。

まず、資料2-1から2-4の「子どもの生活実態調査」ですが、調査票については、前回の状況と比較検討が可能となるよう、前回実施の調査項目を基本としております。

内容としては、国で例示された、貧困の状況にある子どもや家庭のニーズ把握や、自治体で実施している制度の認知度、利用意向などの調査項目や、先行して調査を実施した北海道の調査項目などを参考として作成したものです。

基本的には、なるべく前回と同じ調査項目を使うことを考えておりますが、国の動向も踏まえ、現在国においては「こどもの居場所づくり」に力を入れており、調査研究も進められていることから、江別市においても、「こどもの居場所」についての調査項目を新たに追加したいと考えております。

子どもの調査票の赤字となっている部分が、追加の調査項目です。

次に、資料3-1、3-2の「ヤングケアラー調査」ですが、「ヤングケアラー」という言葉の認知度を調べるほか、実際に何らかのお世話等をしている子どもについて、どんなことに困っているのか、どんな助けがしているのか等を把握するものです。

調査票については、先行して調査を実施した北海道の調査項目と比較検討が可能となるよう、北海道の調査票をベースに作成しております。

北海道と江別市において、地域的な乖離がないか、傾向の違い等から取り組むべき支援策に違いがないか確認を行い、必要な支援策の検討材料とするものです。

資料の説明は以上となりますが、本日の会議では、調査の実施概要や、調査票の設問の追加、削除などについて、ご意見等をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

#### ○藤野会長

ただいまの説明について、資料1、資料2、資料3に分けて、質疑をお願いいたします。

それでは、まず資料1、実施概要案について、委員の方から質疑がございましたらお願いいたします。

○榮副会長

5年ぶりという形で実態調査ということですがけれども、前回行った時の回収率はどれぐらいであったのかと、また、回収した調査結果で判明した、子育て上の課題というものをどのように分析したのかと、もう一つ、その分析した結果はどのような形で、施策に反映されたのか、お聞きしたいと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

まず、回収率につきましては、子ども、保護者とも大体6割前後でした。

次に、前回の調査で判明した子育て上の課題につきましては、江別市においても他の自治体同様、ひとり親世帯や低所得者世帯においては、子どもの学習の理解度や塾の利用、子どもの自己肯定感などが低くなっていたことから、保護者の収入状況や生活環境が、子どもの学習や生活、心理などにも関連しているため、そうした部分への支援も必要ということでございます。

施策への反映については、学びや自己肯定感を高めるためには、そうした機会を得られる子どもの居場所も重要となることから、放課後児童クラブや緊急サポート事業に関して、ひとり親への支援ということで、新たに利用料の減免等を実施しております。

また、様々な課題が見つかったため、そのほかでも、子どもへの医療費助成の面では、来年4月から、現行小3から中3までへ対象幅を拡大することや、学習支援の面では、本年4月から、教育支援課の方で、すぽっとケアの活動日数を増やすなど、現在も各部署でも可能な事業の検討を続けているところでございます。

○藤野会長

調査方法についてですが、前回の調査の際には、もう既にWEBでの回答でしたか、それとも紙での郵送でしたか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

前回は紙でした。小・中学生については、学校にご協力をいただき、紙の調査票を配布し、回答は封筒に入れてもらい、学校側で回収もお願いしておりました。

○藤野会長

その際に、学校で封筒を渡して、子どもについては学校内で回答していたのでしょうか。それとも自宅に持ち帰っていますか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

持ち帰ってもらい、保護者の調査票も同封されているので、回答後は、子ども、保護者の両方を封筒に入れてもらい、期日までに、学校で回収していただきました。

○藤野会長

その時には、同じ封筒で、保護者と子どもの調査票とが回収されることで、子どもと保護者を紐付けできることが分かりますが、今回は、それをID、PWに変えるということによろしいですか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

調査依頼文については、これから作る事となりますが、その依頼文に、WEB上の回答フォームに繋がる2次元コードと、ID、PWを記載する予定であります。その番号をセットにすることにより紐付けもできるようにしたいと考えております。

○藤野会長

今回WEBで実施するという事で、2次元コードを自宅に持ち帰り、スマホ等で読み取るということですが、そのスマホは、恐らく小2・小5の子は持っていることが少ないと思われるため、親御さんのスマホを借りて読み込むことになるかと思われませんが、そのような想定でよろしいですか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

現在、江別市内の小中学校につきましては、学校から児童生徒に1人1台タブレット端末が貸与されており、学校でもそれらを利用しているということであるため、それを活用していただく想定です。

○藤野会長

江別市では、カメラ機能もあるタブレット端末を1人1台持っているということですので、それならば良いですが、そうでなければ、親御さんがいるところで回答しなければならなくなるため、回答の正確性が担保されないのではと思い確認をしました。

小学2年生についても、操作はもう可能であるという想定でよろしいでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

小学2年生については、子どもの回答はお願いしない方向で考えております。

○藤野会長

わかりました。

ほか、いかがでしょうか。

○松原委員

小学校から貸与されているタブレット端末で、二次元コードを使って回答するという事でしたけど、学校で一斉に回答するという事はできないのでしょうか。

家に持ち帰り、親が2次元コード、ID、PWを入れさせて回答させるということになると、親の目がついてしまうのではないかと思われるため、学校で一斉に回答するという事では駄目なのではないでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

想定をしておりませんでした、そもそも学校での時間を使って回答するという事が難しいようです。

○金子健康福祉部子育て施策推進監

そういう回答方法もあると思いますが、親の見ていない前で回答することと同じ話で、学校管理下でこのアンケートに答えるということは、あまり望ましい回答の方法ではないものと思います。

できれば、きちんと説明をして、自宅で、1人で回答できるような環境をしっかりと用意してあげるやり方がよいかと思います。

#### ○藤野会長

色々な意見があると思いますが、学校で望ましくないというのは、学校で回答を強制するような形になってはいけないという理解でよろしいでしょうか。

一長一短あると思いますが、回収率をあげるという意味では、家庭も様々な環境があると思いますので、学校で行うこともよいかと思います。

ただ、やらなければいけないという前提でやらせるのは、アンケートという調査上、よくないと思います。

例えばですけれども、学校の時間の中で、親から離れたところでやる、その時に担任の先生から、「これは強制ではないので、やりたくない人であったり、途中で答えたくないなと思ったらやめてもいいんだよ」ということを説明して、「回答はあなたの自由ですよ」ということを伝えた上で回答してもらうやり方もあるかなというふうには思いました。

ただ学校の方で、アンケートにかかる20分、30分ぐらいの時間、それをやれるかどうかということは、学校関係者の考え方にもよるかと思いますが。

#### ○気境子育て支援課事業調整担当参事

今回は、調査依頼文を学校に配付する段階で、説明書きの部分で、保護者が子どもの回答に干渉しないような形で、回答をお願いする内容の文言をいれるなど、工夫検討をしたいと思います。

#### ○常盤委員

どうしても小学校2年生クラスは、親と一緒にになってしまうのではないかと思います。

学校で先生方をお願いするというのは、学校として、教育委員会を通して、時間を確保しなければならない、先生方にもお願いする時間を取らないとならないなど、かなりの負担を学校にかけてしまうと思います。

#### ○蛸谷委員

こうした調査を学校管理下でやるというのは難しいのが実情ですが、協力したいという気持ちはあると思います。

このアンケートの主訴がどこになるのか、着地点を見定めていくと、アンケートを通して、今この多様化の状況の中で、子どもたちがどういう状況なのかを見て、こういう状況なんですよということをしっかりと公表していくことが大事で、そういったことを親御さんたちに考えてもらいたいということが大事なのではないかと思っています。

パーセンテージを上げることも大事だと思いますが、色々議論があったとおり、心配されているのが、お子さんの考えなのか、お子さんのWEBの回答が親御さんの考えが入っているのか、そこはやはり避けたいと考えるのであれば、依頼文を出すときに、アンケートの正確性を高めるために、「できれば離れて回答させるようにしてください」という文言を入れていただけるといいのかなと思います。

また、パーセンテージを上げなければならないということであれば、やり方として、前年度からこういう案件があるのでぜひ教育委員会、校長会の方で、よろしくお願いしますとあれば、1年間の中で、作業が円滑に進むのではないかと思います。

○藤野会長

では、概ね質問も出尽くしたようですので、次に、資料2-1から資料2-4まで、子どもの生活実態調査の調査票について、委員の方から質疑がございましたらお願いいたします。

○藤野会長

質疑に入る前に確認ですが、資料2-1から2-4について、黒字部分は前回の調査と同じ質問項目と選択肢であるためその部分は極力変えないということで、赤字部分が今回新しく入れた事項ということですね。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

基本的に前回との比較検討をしたいということで考えておりますが、黒字部分についても、こうした方がいいというご意見があれば併せてお願いいたします。

○齊藤委員

資料2-2の問1のところ、高校に在籍していない方とありますが、こうした対象者は市の方で把握して、自宅に資料を送るということでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

小学生と中学生の調査依頼については学校を経由してお願いすることを考えておりますが、高校2年生に相当する対象者については、高校に通われている、通われていないに関わらず対象者を拾い上げて、市の方から郵送配送を行い、WEB回答をお願いすることを考えております。

○久保委員

この赤字の質問と回答内容ですが、これは何か見本があるものですか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

国の方で昨年度実施された子どもの居場所づくりを検討するための調査項目を使わせていただきましたので、国と同じ質問項目となっております。

○久保委員

さきほど回答率の話もありましたが、ここの設問回答を複雑怪奇にしまうと回答率に関係してくるかと思えますし、小学校5年生が答えるとしては、少し回答数や選択肢が多いのではないかと思いますので、この選択肢数等の変更は可能なのでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

実は内部でも少し文字数が多いのではないかという議論もあり、今回のこの会議において各委員の皆さまからもご意見をいただき、必要な変更や修正を加えたいと考えております。

○久保委員

過去の質問等との関連や色々な意図があると思いますが、できる限りシンプルで、アンケート上、あまりに行ったり来たりすることで、小学5年生がややこしくなっ

て途中でやめてしまうことがないよう、本当に聞きたいところだけ聞けるようなアンケートになればよいと思います。

#### ○気境子育て支援課事業調整担当参事

まとめられるものはまとめるなど、修正を検討したいと思います。

#### ○榮副会長

言葉の問題として、資料2-1の問2の「頻度」について、小学5年生がこれを読んで「頻度」とは何ということにならないかということと、赤字のところ、3頁の問9にある「居場所」という言葉、これが果たして突然出てくるため、通じるのかどうか、それと高校になると、寮を持っているところもあり、全道各地から寮に集まっていて、ある程度住民票が集まってきているはずです。

そういうような場合の江別市民なのですが、親御さんはどのように考えるか、その辺のところをお聞かせください。

#### ○気境子育て支援課事業調整担当参事

まず、「頻度」等の表現の部分については、分かりやすい表現に修正したいと思います。

高校2年生の対象データについては、まず市内に住所のある高校2年生相当の方のデータを拾い、保護者のデータを紐づけて抽出する予定でございましたが、子どもと親御さんの住所が異なる場合については、再度整理をした上で、方針について、後ほど回答させていただきたいと思います。

#### ○藤野会長

まず、形式的な細かいところ2点ですが、資料2-1の問6については、恐らくまるはいくつでも良いということだと思いますが、1つ答えるのか、いくつ答えるのか、ここだけ指示がないため、追記された方がよいかなと思いました。

もう1点は、問9の質問の文章ですが、問6から問9は、「今ここに居たいという場所がある」ことを答える設問ですが、問9は、「あなたが居場所でやってみたいこと」となっております。

それまでの問6から問8は「居場所」という言葉を使っておらず、「場所」となっているため、問8の場合も、「その場所」となっており、その場所がある人に対して「その場所」と聞いているため、問9についても「その場所」とした方がよいかなと思いました。

3点目は内容に踏み込んだものですが、問4について、問4は、あなたは「ほしいですか」と聞いて、その後に問5で、「ありますか」と聞いているため、設問で、少し混乱する子もいるのではないかと思うと同時に、問10の選択肢の5のところで、「必要と感じないため」という回答があるため、問4で「いいえ」と答える人は、問10で「5」と答える人ということだと考えられるため、問4は削除しても、情報量としては変わらないのではないかなと思いました。

#### ○気境子育て支援課事業調整担当参事

まず、1点目と2点目につきましては、ご指摘のとおり修正させていただきたいと思います。

問4、問5については、国の調査様式をそのまま使用させていただいたところですが、ご指摘のとおり、混乱してしまう内容の設問であり、ご意見をいた

だいたとおり、問4削除の方向で修正検討したいと思います。

○藤野会長

少し付け加えますと、問10の選択肢の2、3、4で、カッコして（行きたい場所はあるが、）の部分が、問4で「はい」と答えた人の内訳になると思います。

問10の5のところは「いいえ」の内訳になると思いますので、十分カバーできるものではないかと思ひます。

○小倉委員

子ども用の調査票案にある赤字の子どもの居場所についての設問が、保護者用の調査票案に保護者から見た子どもの居場所についての設問が無いようですが、保護者からの意見というのは必要ないのでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

今回は、国の方の実態調査の結果と比較検討可能となるように、国の方で実施した調査の対象区分と合わせて、まずは子どもからということで考えておりました。

率直に、子どもたちはどんな居場所を望まれているのか、今回はまずその子どもの声を把握する部分から調査させていただきたいと考えております。

○久保委員

今の質問と少し重複しますが、結果的に、この調査は何を明らかにする調査なのか確認させてください。

子どもの状況を確認する調査なのか、子どもと大人の両方の状況を確認する調査なのか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

生活実態調査自体は、子どもの状況と保護者の経済状況などの兼ね合いをクロスさせて分析して、こういったものが必要なのではないかと検討するための材料とするための調査と考えております。

今回、子どもの居場所の部分の質問については、国の方でも子どもの居場所づくりに力を入れていくということで、子どもを対象とした調査が実施されていますので、ここの設問だけは、国と比較できるように子どもを対象を絞った質問とさせていただきます。

○久保委員

大人のアンケートを見ると、経済的な設問が多くて、子どもの方を見ると、居場所や実態などの質問が多くなっているように思われますが、「経済的に苦しい親たちが多いため、子どもの居場所がないです」という結果にしかならないような気がするため、できれば、大人と子どもの対の質問があって、「子どもは居場所がないと思っているが、大人は居場所があると思っている」など、そうした対があって実態調査になるのではないかと思います。

そうした対になった項目がないと、繋がらず、経済と子どもの心境という結果にしかならないのではないかなと思われるので、増やす減らすは構いませんが、対になる部分があってよいのではないかと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

今回、子どもの調査票にだけこの質問を設けたことについては、実際、どのような居場所が求められているのか、ということで、子どもの声を、まず拾いたいというところがあります。

現在、放課後児童クラブのほかにも、子ども食堂ですとか、学習の場ですとか、そういったものが注目されている中、国も調査した段階で、オンラインの空間も子どもの居場所として役立っているようなことも、国の有識者会議の中でも例として出てきており、そのオンライン空間の中で、子どもが相談して解決に繋がったなどということもあって、実際、オンラインみたいなものも子どもの居場所の中に入ってくるのか、こうした点も調査によって確認したいという意向もあって、まずは子どもの声を聞いてみたいということで考えておりました。

○金子健康福祉部子育て施策推進監

今、ご提案いただいた内容についても少し考えたいなと思います。

保護者の設問を子どもの設問数と同じぐらいたくさん設けることは厳しいかと思いますが、例えば、「あなたのお子さんが、学校や自分の家以外に居場所があるかどうか」という設問だけでも、何かしらの分析になるのではないかとも思いますので、これに関する設問を保護者の調査票で1つ2つ追加することを検討させていただきたいと思います。

○藤野会長

赤字ではなく黒字の部分ですが、保護者用の資料2-4の問17について、前回調査項目と同じだと思いますが、9に生活保護受給中とありますが、生活保護受給中の家庭で、世帯年収1に当てはまる世帯もあると思います。

その場合、1をつけるのか9をつけるのか、どちらにもつけられるため、例えば、問17のところでは、世帯年収について選択肢1~8までで聞いておいて、別の項目を立てて、生活保護受給者かどうかというところで、「はい」「いいえ」ということで聞くと良いのではないかと思いました。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

いただきましたご意見で、検討したいと思います。

○藤野会長

概ね質問も出尽くしたようですので、次に、資料3-1、3-2、ヤングケアラー調査の調査票について、委員の方から質疑がございましたら、お願いいたします。

○藤野会長

この調査も、国の何かがあるのでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

令和2年頃より、国や北海道の方で先行して調査を実施しており、今回の調査票については、昨年、一昨年と、北海道の方で実施された調査票を基にして作成しております。

○齊藤委員

中学2年生と高校2年生用の調査票案にカラーで、ヤングケアラーについてというイラストがついているのですが、小学5年生用の調査票にもつけた方がいいと思

います。

それと、ヤングケアラーという言葉がわからない子どもがたくさんいると思うので、ヤングケアラーとはこういうことですよというのを説明してから、アンケートが始まる方がよいと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

いただきましたご意見を踏まえて、内部で調整、検討したいと思います。

○松原委員

実際、ヤングケアラーの子どもたちは、自分がヤングケアラーだと知らない、ということを知ったことがあるため、自分がヤングケアラーなのか、そうでないのかを聞く質問もあっていいのではないかと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

そういう実態を把握する調査ですので、内部で調整して考えてみたいと思います。

○常盤委員

今のご意見と一緒にですが、ヤングケアラーだという認識がない子がいて、当たり前のことだと隠れてしまっている子もたくさんいますので、やはり、前段の説明も必要ではないかと思います。

○榮副会長

小5用の問3の(2)で、あてはまる番号をすべて選択とあり、お世話が必要としている方二人以上いる場合は、それぞれの方についてお答えくださいとありますが、選択枠が1つしかないため、複数いたらどう答えようかとならないか、お伺いします。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

紙ベースとしたため、1枠となってしまいましたが、WEB上で回答するときには、それぞれの方で回答できるイメージで考えておりました。

○齊藤委員

高校生用で問5(2)-c、お世話の内容を教えてくださいという項目がありますので、小学5年生の方も、お世話の内容の項目を入れた方がよいと思いました。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

こちらにつきましても、内部で調整して考えてみたいと思います。

○蛸谷委員

小5子ども用の資料3-1の1頁、少し5年生には難しいかなと思ったものですが、問3(2)の四角で囲っている選択肢の6番、7番、知的障害、発達障害というのは、なかなか難しいと思いますので、5番目に近い、身体が不自由な方というところに入れてもらったほうが良いのかなと思います。

同様に3頁の問7、選択肢枠の6、スクールソーシャルワーカー、SSW、これも子どもはほとんど接点がありません。

子ども達が聞けば、スクールカウンセラーであれば、どこの学校にも常駐してお

りますので、「スクールカウンセラーなどの支えてくれる人」など、そのような選択肢の方がよいのかなと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

そのようなわかりやすい表記の方で、修正検討したいと思います。

○藤野会長

さきほどの齊藤委員からの意見と関連したこととなりますが、

資料3-1の小学生の調査票には、ヤングケアラーに関するお世話の内容が書かれていないため、このままでは、お世話というと、きっと直接的に何か介助をしたりとか、介護したりというイメージしかないのではないかと思います。

付き添いも含めて、その人に対して何かをケアする、お世話をする、私たちがそんな風に思いますけど、そういうふうにより強いイメージを持たせてしまうと思います。

直接的な付き添いや介護だけでなく、本来子どもがやらなくてもいいような家の用事であったりとか、家事であったりを、大人である他の家族ができないから家事などを担わなくてはならない、というケースがすごく多いと思います。

でも、お世話というふうに言われると、その人の何か直接的な世話とってしまうため、むしろ家事、洗濯物をたたんだり、料理を作ったり、買い物に行ったり、ということが、本来やっている子であっても、そのお世話という言葉で、「あ、そうでないんだ」とってしまう、そういう危険性があると思いますので、ヤングケアラーについて、お世話という言葉に引っ張られないような説明というものが、アンケートで工夫されると、より実態をつかめるようになるかなと思いました。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

その辺につきましても、内部で工夫してみたいと思います。

○久保委員

この調査も、先ほどの実態調査と同じスキームの中で調査するアンケートということよろしいですか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

はい。

○久保委員

この調査については、親のアンケートはないということでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

実際、当事者というか、知らず知らずのうちに自分がヤングケアラーになってしまっているのではないかというお子さんの状況を今回確認したいということで、生活実態調査と形式上、併せて実施はいたしますが、調査の中身としては切り離して、別調査ということで考えております。

○久保委員

さきほどの実態調査とヤングケアラーの方が近いと思い、さきほどの話と重複しますが、親の現状と実態との乖離のようなものがあり、分かりやすくするのであれ

ば、ひとつにまとめるだとか、親側の状況と子ども側の状況との対比のような話になるのかなというのがありましたので、同じスキームでやるのであれば、親の方も同じスキームでできるのではないかなとも思いますので、そこもご検討いただければと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事  
持ち帰って検討してみたいと思います。

○藤野会長  
資料3-2 高校生の問1のところで、全日制・定時制とありますが、通信制などはあえて入れていないのでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事  
こちらについては、北海道の調査票の項目通り使わせていただいておりますが、通信制などの表示も加えるかどうかについても、持ち帰って検討させていただきたいと思います。

○藤野会長  
通信制の生徒さんもけっこういると思いますので、その場合、通信制の生徒さんは対象外ということなのか、どうなのかというところになるかと思います。  
それと、資料3-1の問2、「家族の中に高齢や病気、身体の不自由、幼いきょうだいがいるなどの理由により」、となっておりますが、「幼いきょうだいがいる」からお世話が必要な人がいるというよりは、「若い」などの理由により、ではないかなと思いました。

○気境子育て支援課事業調整担当参事  
いただいたご意見を受けて、そのような表記に修正するよう調整を図りたいと思います。

○藤野会長  
資料3-1の問8、「悩みを相談したことがありますか」のところで、1から10まで選択肢がありますが、1の選択肢も、「悩みはあるけれども相談するほどではない」ということだと思いますし、そういう人はいないかもしれませんが、「悩みはない」という選択肢もあるべきかなと思いました。

というのも、問5の「どういふことを感じていますか」というところに、やりがいを感じている、楽しい、充実しているなど、そういうポジティブな選択肢を入れているにもかかわらず、「誰かに相談したことがあるか」のところで、「ない」というところに、「悩みはない」という選択肢がないのは、少し変ではないかと思いましたが、回答する人がいるかどうかは置いておいたとして、選択肢としては入れた方が、アンケート調査としてはいいかなと思いました。

それと、少し細かい点となりますが、資料3-2、問4、問5(2)-aの選択肢のところは、なぜか中学生・高校生の方が、「おさない」の表記が漢字になっていないので、少し気になりました。

また、最後にチェックされるとは思いますが、問5の星印2つ目ところで、「それぞれ方」となっている表記は「それぞれの方」ということで、少し気になりました。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

いただいたご意見を受けて、修正対応したいと思います。

○齊藤委員

表記の関係ですが、資料3-1の4頁、問10の選択肢5、6に出てくる「サービス」という言葉ですが、ここで意味する「サービス」と5年生が思いつく「サービス」とでは違いがあると思いますので、違う言葉で表現したほうがよいと思います。

それと質問ですが、このアンケートでヤングケアラーと思われる人がたくさん出てきた場合は、これは匿名でのアンケートですが、救済してもらえるとどうか、対応できるように何か手立てを考えているのでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

まず、表現の部分は、わかりやすい表記で修正検討したいと思います。

それと、こちらの調査について今回ID、PWを設けることには、ひとつに、どこの学校のどの学年にアンケート調査が配付できたかということを確認できるようにするということがあります。

個人までは特定できないのですが、どこの学校のどの学年からどういう回答がきてるということは確認し対応できるようにしておりますので、フィードバックが必要なものについては各学校の方へ返したいと考えております。

○榮福会長

高2の基本情報のところで、さきほど全日制・定時制、これしかないのご指摘がありました。実態調査の方では細かく選択肢があり、その他というのがありました。

その他というのは、高校に在学していない人の方が、むしろヤングケアラーになる危険性はあるのではないかと、思いますので、そこは是非追加、見直しをしていただきたいと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

検討させていただきます。

○藤野会長

ヤングケアラー調査をして、もしヤングケアラーだという子がいた場合、どうするかということと関連したことで、個人までは特定できないということで、これはアンケート調査として限界があるかなと思います。ただ市で、市に在住する子どもにアンケートを配付して、協力してもらっている以上、何らかのその子のためになるというか、ものは示したいなというふうに個人的には思います。

そこで、例えばですが、WEBでアンケートをしていて、最後の自由記述のところに行き、回答し終わると、「ご協力ありがとうございました」と出るとは思います。そこあたりに、自分がヤングケアラーじゃないかなと少しでも思った人や、それ以外にも何か困ったことがあるなというふうな人は、ここに連絡してきてねというような市役所の部署の電話番号だったりとかメールアドレスとか、名前は言ったり言わなくてもいいから、というような最後のページというかを載せるというのはいかがでしょうか。

それを利用するかどうかは、その子の最後の自分の決断力だと思うのですが、た

だデータとして取られて終わるみたいな、何か不信感みたいなものが、その子の中に残るよりは、言えるんだというふうに、このアンケートが気づきの場になるというか、そうなるといいなと思いますので、ぜひ、検討していただけたらと思います。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

今回資料配付後、会議開催直前に、担当の方からも、最後の部分にヤングケアラーに関する相談・困りごとについてはこちらまで連絡してくださいという趣旨の内容を入れたいとのことでしたが、資料修正が間に合いませんでしたので、今いただいたご意見も踏まえまして、そのような表記方法を調整したいと思います。

○藤野会長

概ね質問ご意見、出尽くしたようですので、次の議題に移りたいと思います。

### 3 その他

○藤野会長

次に次第3、その他について、皆さんから何かございますでしょうか。

○各委員

なし。

○藤野会長

特に無ければ、事務局から何かございますでしょうか。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

本日は、委員の皆さま方より、多数の貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

いただいた意見も踏まえまして、アンケートの調査票の案を更に修正して検討してまいりたいと思います。

修正した調査票について、皆さま方からのご意見をいただきたいと思いますと考えておりますが、調査票等作成、印刷等の時間の都合もあり、もし、時間がなかった場合には、会長と副会長にお諮りして、ご意見いただきながら、調査票を完成させたいと考えておりますが、委員の皆さまよろしいでしょうか。

○各委員

了。

○気境子育て支援課事業調整担当参事

次に、次回の会議の日程についてですが、委員の皆さまの任期が来月10月末までということでありまして、各団体等に新しい委員の推薦を依頼させていただきまして、公募する委員についても新たに市民公募を行ったうえで、今回は11月の中旬ぐらいに開催したいと考えております。

以上でございます。

○金子健康福祉部子育て施策推進監

今ご説明のとおり、委員の皆さまについては、会議は今日で最後となります。

私がこの会議に出席させていただいたのは今日が初めてですが、これまでの会議の議事録を全部読ませていただきました。

子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについても、たくさんご意見をいただきましたし、その他の議題につきましても、大変活発にご意見をいただき、本当にありがたかったなと思っております。

どうしても、役所の人間が色々作ると、硬直化したものになってしまう、今日もそうですけれども、その中で、市民の皆さまにご意見をいただいて、初めて市民の皆さんが納得するようなものとなっていくというのが、こうした市民会議の良さだと思っておりますので、次期の委員になれる方、なれない方、いずれにしても、今後とも、色々な機会でご意見をいただきたいと思います。

特に団体から推薦を受けておられる方については、次もお願いするということになる方がたくさんおられると思っておりますので、今後とも色々よろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

#### ○藤野会長

事務局からもありましたが、本当に皆さん、任期期間中、それぞれの議題に対して、真摯なご意見を寄せていただいて、ありがとうございました。

司会を会長として務めておられて、皆さんの意見に、なるほどなと思いながら、司会をさせてもらっていました。

こんなふうに、色々な方が色々な立場から意見を出してくださって、その中で、江別市の子どもたちの環境というものが少しずつ良くなるのかなと思います。

本当にお疲れ様でございました。

どうもありがとうございました。

## 4 閉 会

#### ○藤野会長

以上で、令和5年度第1回江別市子ども・子育て会議を終了いたします。

皆さん、お疲れ様でした。